

キ/コも通信

第69号

平成30年12月26日

発行責任者 武田浩文



年末に大寒波が襲来する予報もある中、少し動けば汗ばむ気温となった12月23日の活動日には、6名のメンバーが集結。

ナラ枯れ被害を拡大させないために伐採した樹木の焼却処分や、シノブ退治に心地よい汗を流しました。

降雨により伐採木が水分を含んでいるばかりでなく、湿度も高いこともあって、火をつけるのにも悪戦苦闘。

このような中、竹の力は凄いですね。メンバーの提案により、伐採した竹を入れると一気に炎が大きくなり、里山整備の必須アイテムである焼き芋が完成(_)-☆

焼き芋をモグモグ(~ ~)しながら、活動エリアを見上げますと、美しく整備された里山が……

日本の原風景である整備された里山も、1年間活動を休止すると、元の木阿弥となることから、継続した活動が求められます。

～持続的発展性のある活動を目指して～

仕事柄、様々な活動団体の中心的なメンバーと話をすることがありますが、「メンバーが固定化されて広がらない」や、「後継者不足」が共通の課題として顕在化しており、ご多分に漏れず、「キ/コもクラブ」も同じ悩みを共有しています。

このような中、ローランド・ベルガー日本法人会長の遠藤氏は、その著書の中で、死んでいる会社の特徴として、いくつかの項目を指摘しています。例えば、死んでいる現場は、「極めて近視眼的で、目先のことばかり気にする」としており、「ワクワクするような未来への共感」が重要としています。私たちの活動も、「ワクワクするような、目指すべき未来像」を明確に掲げたいものです。

更に死んでいる現場は、「外の世界に関心が薄く、外を見ようとしなない」としており、内部の論理を優先する手法から、外部からの刺激を受け、変わりゆく環境に的確に対応していく心構えが重要としています。

その他にも、「上司や経営陣に物申す」気概を有していないことから陰で愚痴ることや、過去の成功体験を捨て去り、未来に向かって突き進む「真のプライド」を持ち合わせていない事などを指摘しています。

その中で、何かヒントが隠れているように感じたのは、「過去の常識との決別」という項目でした。

私たちは無難でリスクもなく、楽な選択を好みます。よって、「過去からの自分たちの常識がいかに今の世の中とずれているか」に気づくこともなく、「これまでの常識が正しい、これまでの常識でこれからもやっていける」と勝手に思い込んでいますが、それでは進化は期待できません。「過去の常識」を否定し、「新たな常識」を生み出すことで、私たちの活動の持続的発展性が確保されるのではないかと…そのために、何をなすべきか…システムは…

その答えが導き出されるまで、継続は力なりを合言葉に、コツコツと活動を続けていきますので、賛同いただける皆様の積極的な参加をお待ちしていま～す(_)-☆

～今回も頑張りましたよ～



火をおこすのも一苦勞



今年ほど異常気象を強く意識する年は無かったように思います。代表的な温室効果ガスである CO2 の削減は、「待ったなし」の状況に至っていると考えますが、多国間協議においては自国の利益が優先されています。異常気象による死者も多数出ているのに、世界共通の課題として認識されるのには、まだ時間を要するのでしょうか。

更に、自国だけ良ければ・・・という保護主義的な発想も拡大しています。

先を見通しにくい社会ではありますが、来年が皆様にとって幸多い年になることを祈念します。

次回活動日のお知らせ

日程：平成 31 年 1 月 19 日(土)

時間：午前 8 時 30 分 市役所正面駐車場の北側又は現地駐車場集合

内容：枯木焼却、シノブや雑草退治



メンバー募集 キノコモクラブでは常時メンバーを募集しています。

公務員も仕事外の活動に参画し、地域おこしや社会貢献をどんどんやろうじゃないか。この想いを持つ全国の国・地方の公務員が全国で活躍しております。里山からの恵みを楽しみながら、持続可能な活動を目指しています。特に、若くて体力のあるみなさまの積極的な参画をお待ちしております。興味のある方は、木津川市役所 マチオモイ部の武田までご連絡ヨロシク。